

平成 29 年度第 2 回倉吉市総合戦略推進委員会 議事要旨

日時：平成 29 年 9 月 26 日（火）14：00～16：00

場所：エキパル倉吉 多目的ホール

【資料】

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2 平成 28 年度地方創生加速化交付金を活用して実施した事業の効果検証
- 資料 3 平成 28 年度地方創生推進交付金を活用して実施した事業の効果検証
- 資料 4 平成 29 年度第 1 回総合戦略推進委員会 意見対応一覧表
- 資料 5 課題別 本市の現状等関係資料
- 資料 6 総合戦略掲載関係事業リスト【平成 29 年度取組状況】

1 開会

※出席者：福井委員、三木委員、多田委員、山脇委員、荒瀧委員、大田委員（河越委員代理）、吉田委員、田村委員、河野委員、加藤委員、安田委員、名越委員、尾崎委員、岩世委員

欠席者：松田委員、桑原委員、山下委員、竹尾委員、山本委員、桑垣委員、山田委員、米田委員、田中委員、川村委員、大江委員、石村委員、宇田川委員

2 平成 28 年度地方創生関係交付金事業の効果検証について

資料 2 について、総合政策課から説明を行った。

多田委員	<ul style="list-style-type: none">・DMOを核とした鳥取中部広域観光振興事業を実施するための施策として、事業とK P Iの関係が直接繋がらないのではないかと。DMOの話は出てこないし婚活の話は観光と違うし、施策の整合性が感じられない。・政策の目標としてK P Iが絡んでくるが、年間観光入込客数や宿泊客数の根拠、どういう理由に基づいてこの数字が出てきたのか。この数字を実現して倉吉でどういう姿を実現したいのか理念や思いがあれば教えてもらいたい。
美船次長	<ul style="list-style-type: none">・観光分野における交付金の考え方は、国の方針として単市の取り組みでは交付金の対象とされないため、広域的な取組をすることになっている。・鳥取県中部で観光DMOを推進する広域的な取組としては、各市町のそれぞれの観光資源を磨き上げていくことで、1市4町観光ルートが形成できるという考え方。・中部1市4町の資源を活用した観光振興に取り組みながら、観光DMOによる外国人の流客や県外からの日本人観光客の誘致に取り組むよう考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市は、地域資源活用の観光振興として打吹（成徳、明倫）エリアの観光を重点的に行う中で、回遊性を高めるために点から線、線から面に観光ルートを形成し滞在時間を伸ばしていくことについて、外部への発注の成果をもとに観光ビジョンを策定した。 ・観光ルート形成の上で空き家があることは致命的。空き家の存在により「この道の先には何もない」と思われたいよう、いかに空き家を使ってもらい、観光ルートをつなげていくかが重要。 ・小川家についても、観光資源の活用として取り組みたい。 ・婚活事業については、観光ルートを巡りながらの婚活事業など、観光資源を活用するような事業を中部で取り組むために財源を確保した。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・交付金のK P Iの根拠については、鳥取中部ふるさと広域連合で設定しているもの。倉吉市は別個に計画、K P Iを持っている。H26 を出発点とし、観光入込客数を増やしていく計画で作っている。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略推進委員会は倉吉市についての話をする会だが、交付金の評価は、中部の広域エリアの話になると思う。その辺りはどう考えるか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでK P Iは中部で捉えてもらいたい。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、温泉に関しては三朝や湯梨浜に多くあり、倉吉には少ない。倉吉にないものは検証のしようがないのではないか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・1市4町同じように振り返りをしている。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・DMOを核とした観光振興事業を周辺の自治体も巻き込みながらやるのは当然のこと。観光政策としてはいいと思う。 ・しかし総合戦略は単独自治体の話であり、広域の取組の中でも倉吉市単独での結果が示されて初めて評価ができるのではないか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の考え方は2つある。事業単体の評価と、もう一つは別途倉吉市の総合戦略の中で観光入込客のK P Iを設定している。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで広域連携の事業として先駆的な取組として採択された事業であり、それに基づき中部全体の指標も取っている。 ・DMOはここに掲載の5事業だけをやっているわけではなく、その他にも幅広く事業をやっている。その中から国の事業に関連する部分を、国の交付金を使って実施した。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中部全体の観光振興事業について評価をするという事でよいか。 ・K P Iの根拠は観光推進計画の数字を引用したとのことだが、その考え方を教えてほしい。 ・この数字に近ければ効果があったという事ではないと思う。 ・この目標数値がどういう意味を持つか、皆さんが理解していないと納得で

	<p>きない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この数値の背後にある考え方と皆さんの考え方で擦り合わせをしながら評価すべきではないか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・DMOについては資料不足なので、計画の目標数値の根拠を示し、事業によって中部の観光が良くなったか、悪くなったかが分かる資料を改めて送付し、再度意見をいただくということでお願いしたい。
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の倉吉観光ビジョンの策定は、最後がいい加減に終わってしまったもの。 ・策定委員としてじゃらんの方と東京の先生を呼び、大きな金額をかけてやったが内容がいまひとつ。残念な結果になってしまった。
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小川家住宅で事業として載る部分は、住宅と庭になるのか。 ・工場については業者がまだウイスキーと焼酎を作っているのかわからないが、工程表の整備事業の中に予算は入っているか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財ということで県や市が関与し事業を進めていく。 ・平成28年は庭の改修計画や加えて改修計画の一部を事業着手する予定だったが、家主が死去されたこともあり、計画まではできたが事業着手まで至らなかった。 ・中心市街地活性化基本計画にも位置付けている事業なので、引き続き目標を定め、家主の意向を確認しながら庭園・住宅の開放に加えお客様を迎えられるような観光機能を今後も検討していく。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・小川家住宅の（交付）実績は0円になっている。
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実績は0円でも計画段階で建てるお金がかかるのではないか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金で計画を策定する予定だったが、計画を作り事業着手をするというまでが一つの事業としていた中で部分的に実行できないことがあるため、国の交付金は一切使わず、県と市の予算で実施した。
山脇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小川家住宅を整備しても点にしかない。そこまでの導線の活性化も同時に考えていかないと宝の持ち腐れになってしまう。それについては何か考えがあるか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ビジョンと中心市街地活性化計画の中で取り組んでいく。特に明倫エリアについては円形劇場が工事を始め、来年4月にオープンする予定。これは事業がスタートしているので大きな核になる。 ・小川邸の隣にある高多邸も小川邸と同じように文化財的価値のある建物。この建物の活用についても中心市街地活性化計画の中で進めていく。 ・円形劇場の事業の波及効果で、周辺の空き物件の活用が徐々に進む流れができつつある。

資料3について、総合政策課から説明を行った。

大田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取医療産業戦略ステップアップ推進事業について、具体的な企業名を公表した方がわかりやすい。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・モリタ製作所。京都に本社がある歯科医療の全国トップメーカーを誘致したことで、医療系の事業についてはこれから期待される分野である。 ・鳥取県と一緒に誘致をし、この成果をモリタの誘致に留まらず地元の既存企業にどう波及させていくかが課題。 ・医療産業と関わるところへ地元の事業所に新たに進出してもらいたく、まず医療産業の現状を把握するため、大阪で開催された大きな催しに地元の企業にも出てもらい、医療に関する部品や商談の現場を見てもらうことで今後の医療産業の促進をしようとした。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・モリタ製作所に観光客が280人とはどういう事か。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・モリタ製作所に国内外から工場見学に来られる方が非常に多い。 ・京都の本社に行く度に外国の旗がのぼっているが、それは海外からのお客さんを迎える時に各国の旗を掲げて歓迎をするため。 ・モリタ製作所ができれば視察のために人が来ると思い、視察後周辺の観光に繋がるのではないかと考えそれを指標にした。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・医療産業戦略ステップアップ事業では、モリタ製作所以外の企業も誘致されて一定の産業集積がみなされるように見えるが、これを評価する指標としては物足りない。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・産業集積まで行けばいいと思ひ、とりあえずの1年間の活動指標として測れるのはこの指標くらいで、補助金の効果検証とした。単年度の効果検証ということもあり物足りなさはあるかもしれない。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・工場が建ったことにより従業員数が増え視察・見学者が増えたということはあるが、これを評価するのは難しい。 ・社会実験の効果で観光客数の増加に繋がったとは言えないと思う。(資料には)社会実験があったことで実績が得られたとあるが、私から見て効果があったように思えない。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり。しかしKPIを変更することができないので、今後役に立つかということで評価をいただきたい。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ環境が整ったところが行きやすいところであり、観光地として選ばれる。旅行エージェントに鳥取県中部は環境が整った場所だと認識してもらえると、お客様に紹介してもらいやすくなり全体の入込客数にも繋がる。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実験をすることは賛成。 ・インバウンド交通は課題であり、外国人の方にアンケート調査をすることは大切。

美船次長	・現状とK P I とのギャップを含め、郵便で資料を送らせてもらう。
------	------------------------------------

3 今後の施策展開について

三木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用環境について、地域のお客様と話す中で非常に人材不足であることが分かる。例えば、小売業を新しく展開したいがアルバイトが集まるか不安と言われる。雇用者側の問題は改善したが、事業者にとっては逆に事業拡大の足かせになっている状況。 ・近年は採用時の学生の取り合いが多いと感じている。 ・その中で地元企業にいかに学生や若手を送り込んでいくかが大きな課題。 ・一つの方法としてインターンシップの積極的な実践があるのではないか。 ・以前、N P O 法人の学生人材バンクと鳥取銀行が提携し、N P O 法人がされている事業を地域のお客様に届けることで貢献しようという事業をした。 ・具体的に言えばインターンシップは非常に短期間のものが多く、鳥取銀行もインターンシップで高校生を人事部に受け入れているが効果は薄い。 ・民間企業に送り込んだ事例からすると、定着に繋がればいいと思いつつ効果はまだ出てきていない。 ・前回森林組合さんが高校生のインターンシップを始め人材が揃ってきたと話しておられた。林業だけでなく農業、製造業、サービス業、建設業あらゆる業界に適した学生を送り込む事をしたらよい。 ・期間も学生の休みを活用し、1ヶ月～数ヶ月のプランができるとよい。 ・学生人材バンクさんからは、学生が社員として入ったということは聞いていない。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4年ほど高校でインターンシップのコーディネーターをやってきて、今は高校や大学の講師をしている。その中で実感するのは、学生のカリキュラムの部分でインターンシップを体験する時間確保がかなり難しいということ。 ・もっとインターンシップをやりたいという学生の声は出てきている。 ・他の業種にもトライしたいと思っている学生もいる。 ・カリキュラムの問題が本当にどうにもならないのかということとは分からない。企業側だけの問題ではないので、教育委員会にも入ってもらい検討してもらいたい。 ・学生がやりたい事を応援してあげるという目線を持たないとインターンシップの充実は難しい。 ・学校が単独で企業にお願いをするのは難しい。 ・今後の取り組みとして、商工会議所にもバックアップをしてほしい。 ・教育側では、どのようなことが企業にとって迷惑で、どの範囲なら良いかが分からない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・何もした事のない学生が経験をさせてもらいに行くわけで、一般従業員の時間を余分にとることは分かり切ったこと。そこをあえて雇用促進のためにと間に入ってくださる方のフォローがないと非常に難しい。 ・現在のインターンシップは、高校生は2、3年生で実施。いろんな体験をさせてあげることで地域との連携や企業との繋がりが変わってくるが、学生は部活等に縛られているので、そのあたりの調整をするために教育委員会にも入ってもらいたい。 ・自分はビジネスマナーや行く前の事前学習などを担当している。行く前の学生の希望や行った後の学生の意見を聞くと、やはりインターンシップはとても効果があると分かる。地域に対する知識が広がれば地域への親近感も生まれるので、商工会議所にマッチングの協力があればいいと思う。
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと見える化を進めるべき。 ・移住定住もそうだがインターンシップやワーキングホリデー等、いい制度があるがあまりにも「見える化」されていないので知らない人が多い。 ・雇用する側も行く側も、発信しなければならない。 ・そうすると知らない人が引っかかる。 ・大切なのは、行った子たちがどんなものを得て帰ってきたか。企業もインターンシップを受け入れたことによって刺激を受けたこと等も「見える化」し、発信してもらいたい。
大田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・岩世委員はインターンシップのコーディネーターをされているのか。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所にはこの4年間とてもお世話になった。 ・一部だけではなくもっと広い範囲でもっと協力してもらえたら嬉しい。 ・鳥短の学生が協力いただいたことはあるが、もっと地元の小・中学生の見学もあっていいと思う。 ・企業の紹介を商工会議所にさせていただくとだいぶ違うのではないか。
大田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所の大事な仕事のひとつだと思う。 ・インターンシップは会社も生徒も含めて面白いと思う。是非進めたい。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成はどの企業にとっても大きな課題。受け入れ側の企業にゆとりがない。 ・企業が受け入れをして人材育成をしていけばいいように見えるが、現実には甘くない。地方の中小企業が学生を受け入れる体制をつくるには、企業だけでは限界があるため、行政も含めた枠を作る必要がある。 ・それにはしっかりした事業体制のある企業が継続していくことが必要。これは仕事づくりにも繋がってくる。 ・人が少なくなってきたのも現状だが地元で就職したい学生も沢山いる。 ・受け入れても成長させていく仕組みが足りていない。

田村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年何回か中学生の職業体験を受け入れている。子どもが花屋に興味があるということで、喜んで受け入れている。 ・子どもに興味がないのに学校が送り込んでくるということがあり、何か違う気がして今年1校は断った。 ・受け入れる側は負担が大きく、職業体験のカリキュラムは作っているが子どもに情熱がないと教える気にもなれない。 ・学校側や教育委員会が問題をきちんとしてから送り込んでほしい。情熱がある子はどんどん育てていきたいと思っている。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・企業側の意見はどうか。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(第1回委員会で) インターンシップを体験した高校生が主で5名採用になった話をしたが、この夏の暑さで辞めてしまうのではないかと考えていたが辛抱してやってくれた。 ・今は指導員をつけて楽しくやっている。研修も含めいろいろな現場に行かせている。 ・PRが少ないため林業が学生に知られていない。 ・体験学習を経験した子が後輩に声をかけ、応募があり採用した。そういったことを継続すれば、先輩が後輩を引っ張ってくるのではないかと期待している。 ・林業は3Kというイメージがあり面接の際に山で働く事について親御さんはどう思っているのか聞くが、山の方に住んでいる子は家族の理解もあり入ってきてくれる。 ・1、2年で林業のプロにはなれないので、その中で人材育成が必要。 ・担い手に関してはかなり苦労している。農林水産業ができる事をやり地域に出していけたらと思っている。 ・年に何度か見学会をやっている。今は安全服のデザインを変えるなどしてイメージアップをはかっている。
山脇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップもだが、先ほど吉田委員が言われたように、倉吉は中小企業の方が圧倒的に多い。田村委員のところのようにマニュアルがあればいいがないところがほとんど。 ・受け入れ側としては、マニュアルの作成が面倒でハードルが高くなるので、サポートが必要。 ・お荷物を預かるのではなく、戦力を預かる意識の持ち方をしてもらいたい。 ・学生側のコーディネーターがおられるのでノウハウも沢山持っておられると思う。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が行きたいのは大企業ばかりではない。地元企業就職の希望もある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・田村委員は思いを込めてやってくださっているが、仕方なく受け入れる企業もある。 ・業務に差し支えのない内容のインターンシップで、学生が「いいところだった、面白かった」と感じるかどうか。 ・森林組合のようにプランを立てておられるところは少ない。それは「しない」のではなく「できない」から。インターンシップを提案する方も、ある程度プランを持っていき負担のないよう相談しなければならない。 ・企業側が受け入れてくれるかどうかはとても不安がある。商工会議所のバックアップがありはじめて成功する。 ・教員個人の人脈で何とか事が済んでいるのが実情だと思うので、そこに商工会議所や倉吉市のサポートがあると良い。
山脇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の規模の企業には、協力会社がある。そこが受け入れてくれるかどうか疑問。 ・企業がある程度カリキュラムやノウハウを下に伝えていく事も一つの手。 ・今回の地震で思ったが、家の崩れた瓦を直せる職人さんが足りず、島根県や県外から来られていた。そういうところにも組合があるのではないか。 ・その組合がインターンシップの受け入れ体制づくりをできないか。また、市がサポートに入るべきではないか。
三木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・原点には、人が足りない、若者が来てくれないという企業側のニーズがあり、学生側には幸せな就職先を見つけてもらいたいという思いがある。 ・その思いは相容れないものではないはずだが、実際にインターンシップをすると手が足りない、カリキュラムを作るのが合わないという問題がある。 ・間に立つ中間的な組織を行政や商工関係者が探してきて、コーディネートをする形がとれたら一つのモデルになるのではないか。 ・加藤委員の会社のように、すでに形が出来上がっている企業であればコンサルは必要ない。人は足りないけど受け入れるノウハウがない場合に、サポートする仕組みを作り、民間がお金を払ってやるというのが持続可能なシステムではないかと思う。それを補助金等で賄える仕組みが出来れば良いと考えている。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで、学生の中でも、(ターゲットは) 県外の大学生なのか、地元の高校生、小中学生なのか、また、企業が求める人材を確保するのか、具体的な施策を打つための話に持っていきたい。
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選果場の運営は季節労働的なもので、ピークの時期は遅くまで残業する形を取っている。 ・人手不足の解消のため、圏域で人を回すことは出来ないかと考えている。 ・広島県の農協は直接ベトナムに行き人を雇っている。ベトナムの日本人学

	<p>校の生徒を即戦力で使う等いろいろ工夫しているところもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山の農協は選果場の運営を神戸の人材会社にすべて委託している。 ・地域に人がいても、その時期だけを使う事は難しい。その調整は専門的なところでないと出来ない。 ・短期労働者の確保と農協本体の人材の確保のため、派遣から技術・スキルを絞った形での募集をかけたところ、三朝の地域おこし協力隊が、通訳もでき、パソコンの技術もあるため即戦力で使えたため採用した。 ・どの企業もそうだと思うが2、3年で辞めていく人が非常に多い。それなら逃げられない層を雇っていく方法も考える必要がある。
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参考までに、知り合いが、旅をしながら稼ぐためのゲストハウスを作ったところ、多くの若い人が集まった。その中では林業の正社員になった人もおり、デザインも出来るのでホームページを作ったら代理店にも就職が決まった。 ・いろいろな方法があると思うので、補助金等うまく活用しながらできればいいと思う。
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングホリデーの制度をどう使うか考えている。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・逆にターゲットが増えてしまったが、施策の実現に向けて頑張っていきたいので、企業が求める大学生について掘り下げていきたい。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生と話す機会があり、オリンピックが終わる頃、自分たちには就職氷河期が来るということを話していた。 ・その中にも倉吉に戻って就職したいという子がいた。前回、田村委員から就職の時期や転職の時期にハガキ等を発信していくという発言があり、そういう連携は大事だと思った。 ・数年先を見込んでPRすることは絶対に人材確保に繋がる。 ・今の高校生のUターンの可能性はとても高い。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺りを経験から名越委員に話をしていただきたい。
名越委員	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館組合から出た意見だが、県外に出た学生に、奨学金返済の免除をすれば手っ取り早いのでないか。 ・県はそのような制度はあるが倉吉市は予算の都合上やっていない。 ・条件付きで返済しなくていいということであれば、Uターンする学生が増えるのではないか。 ・地元高校生への講話ということで、高校のクラスごとに話す機会があった。今年話したテーマは、「皆さん知っていますか？このままだと倉吉はなくなってしまいますよ。」という内容。 ・県外へ出た学生全員ではなく、今よりUターンが1、2人増えればいいと

	<p>思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙1枚分の感想を貰うが、40人中5、6人から、話を聞いて地元に戻ってこようと思った、田舎は好きでなく戻ってくる気はなかったが、外にいても地元の事を考えないといけないという声があった。 ・周りの大人に戻ってこいと言われていたが、戻らないといけない理由がなかったという子もいた。 ・高校生で、地元の事を何も知らない子はなぜ地方がダメになるのか、なぜ戻ってこないといけないのかは当然知らない。先生も意外と分かっていない。 ・まちづくりの観点からは、行政の業務の中で、高校の先生や生徒に、このままでは地方が潰れてしまうことを教えるのも大事。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・地元に戻る意識や就職活動についての意見はあるか。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学の生徒が何とか地域に定着してほしいと思っている。 ・鳥取大学に赴任して驚いたのは、大学の学生の8割は県外出身ということ。卒業すると故郷に戻りたいという学生がほとんどなので、兵庫や大阪、岡山に帰ってしまう。 ・卒業生をいかに鳥取に定着させるかというCOCの事業をしているが、なかなか意識改革が難しい。 ・県外の子はやはり鳥取ではなく外に目が向いてしまう。どうやって県内の企業に目を向けさせるかが課題。 ・学生が県内の企業を知らない。 ・彼らの情報の源はWEBであり、マイナビやリクルート等の情報でエントリーシートを書いて出している。 ・そこに地元の企業が載っていない。意識の面でも情報面でも積極性がみられず壁がある。 ・地元出身の学生も、いい企業がないので外に出てしまう学生も多い。 ・地元の生徒も、地元の事を何も知らずに卒業してしまう。 ・県外は当然県内でも情報が入らないので進歩がみられない。 ・COCの事業で意識改革をしようとして、バスのシャトル便を作った。学生が見に行きたい企業があれば、企業と大学でコストを負担して運行している。 ・実際に企業を見れば、「こんな企業があったのか」、「企業規模は小さいがやりがいがある、おもしろそう」などと学生の意識も変わる。 ・地元に関心のある学生に対しては機会を設けるようにしている。 ・大学教授もあまり地元の企業を知らないし、地元の方も鳥取大学は入りづらいという壁があるので、その橋渡しをする中間組織があれば。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大学としても、地元の企業定着の数値目標があり、COC事業に力を入れている。 ・昔と比べると、今の学生は、賃金や企業規模よりも自分のやりたい事を実現できる企業を選ぶ学生が増えている。 ・学生に機会を与えることでかなり変わるので、行政や商工会議所と連携するともっと劇的に変わると思う。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地元就職に興味はあるし、家庭の事情で倉吉にいたいという学生もいるが、大学生が<u>インターンシップ等</u>で企業を訪問する際の交通費が負担となり諦める子が沢山いる。 ・行政側のマッチングも含めて、トライする学生のための補助があると学生の意識は変わってくる。厳しい言い方をすると実のない事業をやめて、(予算は) 未来のために有効活用してほしい。
尾崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取短期大学はほぼ9割が山陰の学生で、就職も地元就職を考えている。1割の県外の学生も地元に戻りたいと思っている。 ・今の学生は、自分のやりたいことを叶えてくれる企業であれば、地元・県外を問わない。やはり企業と学生のマッチングが必要。 ・COCの関係で合同説明会に学生と行ったときに、企業によってレベルの差があると感じた。慣れた企業はプレゼンの仕方ひとつにしても学生の興味が湧くようなやり方をする。 ・宣伝やPRがうまくできない企業を地元がバックアップすれば、レベルの差は感じなくなるはず。 ・昔はインターンシップ=就職という考えだったが、今は自分の就職活動を有利にするためにインターンシップを行う。 ・チャンスを沢山与えることで地元に残りたい気持ちや、地元のことを考える時間が増える。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの中で地元就職などの話題はないか。
荒瀧委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験の話子どもや学校から聞くが、子どもの希望とは違うところにも行かせることになってしまうこともある。子どもが嫌々行っているため、受け入れた側も嫌な気持ちになる。そのために受け入れたくなくなる職場もある。受け入れてくれた企業に大変申し訳ない。 ・全員ではなく、そこに行きたいという中学生をその都度派遣するのが良いのでは。 ・インターンシップは希望制か。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の場合は、全員しなければならない。 ・問題は、学校の中でなぜ職場体験が必要なのかを教えずに行かせていること。教育委員会にもっと考えてもらいたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、教員が子どもの特性を見て、あえて第一希望ではないところに行かせることもあると思う。 ・受け入れ企業にそういった事情の説明がないまま行われている。
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市の名誉市民である麒麟ビールの社長・会長の磯野長蔵を知らない大人や子どもたちが多い。 ・磯野長蔵の奨学金で大学に行った人も多い。 ・倉吉の偉人が皆さんの役に立っている事を教えてあげたい。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の時代の中、(採用について) 企業側の努力を聞きたい。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業で経営資源をどれだけ人材採用等に傾注出来るかの差がだいぶ出てくると思う。
名越委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都会では、一人採用するのに1000万円の費用がかかると言われている。 ・応募をしてもらうためには、PRをしなければならない。PRにも資金が必要であり、お金をかけずに採用はできない。 ・PRして学生が見てくれたとき、会社の魅力的な面を見せないといけない。 ・多くの応募があれば、いい人材が見つかる可能性が高くなる。 ・人を採りたければお金をかけるしかない。お金をかければ、良い人材を採れる可能性が高くなる。
三木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・努力できる企業はすでにやっている。 ・努力する体力のない企業を支援しなければ、中部全体を底上げすることはできない。
名越委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それはどちらが先になるかの問題で、お金がなくても人材が欲しければ投資すべき。そうしないと人は来ない。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県が関西の大学と協定を結び、例えば企業からの要望により、大学生に個別にスカウトするという手もある。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が学生るとき、県内の企業が就職しないかと突然訪問してきた。 ・当時はバブルの時代で就職率が高く、ほとんどが都会で就職していた。 ・今は学生とどう繋がっていくのが重要。「誰か来てくれる」ではなく、来てくれそうな人材にどうアプローチして捕まえるか。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・企業に就職するのはいいが続かない。それは企業も努力しなければならない。 ・私たちが入った時は、企業が長い目を見て人材をじっくり育てていこうという時代だったので安心して就職できた。 ・今の企業は即戦力を求めているが、本来それは良くない。 ・企業の体力がないと、採用しても育成する時間やお金がないと感じる。受

	け皿をつくる企業の努力は必要。
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に取り組む必要がある。 ・企業の体力がないとできないが、自社ではそれを取り入れたことで社員が健康で明るくなった。 ・8時間労働ではなく余裕を持って働いてもらうシステムが必要。これにより定着率が上がってくる。 ・倉吉版の働き方改革ができたならありがたいし、それをサポートしてもらえたらありがたい。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最低3年は技術の習得をしないと続かない。 ・10年前に入れた若者が今は主力で頑張っている。 ・即戦力で山に入り技術的な事をするのは無理なので、若いうちから継続してもらうために、補助事業等を活用しながら人材確保をし、安全対策もしていきたい。 ・人材確保は森林組合にとって必須なので重点的に努力していきたい。 ・紙芝居のセットとベンチを1市4町に寄贈したいと思っている。紙芝居も米子の専門の人に作っていただき、読み聞かせは専門の人にしてもらおうと思っている。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保にかかる資金に関して、銀行の支援は。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関は金融支援だけではない。 ・地域経済が成り立たないと金融機関が成り立たない。企業・地域経済の成長と銀行の活動の活性化は連動している。 ・新規で開業するところが多いが続かない。これには企業の努力だけではなく環境、地域の衰退、人口減少にも原因がある。 ・金融支援だけで成り立つものではない。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や文字だけ見ても案が湧かないことがある。多くの知恵を持っている異業種の方が集まるので、1回くらい小川家住宅等の現場を見て、違う業種の方から問題点を見つけてもらい見直しをしては。 ・行政だけでは見直しをする案が足りないと思う。 ・現場でこそわかることもあるため、そのような試みをしてみては。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを一つ作って検討してみたい。
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生加速化交付金と地方創生推進交付金は29年度もやっているのか。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度は地方創生推進交付金のみ行っている。
徳丸企画振興部長	<ul style="list-style-type: none"> ・加速化交付金でしたことは、継続されている。

美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・DMO事業として継続されている。 ・国の交付金を使えるような事業が出てくれば良いと考えている。 ・今日の会議でインターンシップが有力な方法であることが分かった。教育委員会、大学、受け入れる企業の問題、それぞれの課題がある中で、一定の成果が望めそうなところは見えてきたので、深掘りする価値があると思う。 ・学生と大学生とどうやって繋がっていくか、企業の就職情報をどうやって届けていくか。また、それを企業だけの努力でやっていくのか、出来ないところは一部公的関与があってもいいのか。これらの議論がもう少し必要と思うので、また聞かせていただきたい。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は10月末開催予定。11月上旬からの予算編成に向けて、皆さんからいただいた意見を具体的な事業にしたい。 ・今回の議論を踏まえて、再び事業の提案をいただきたい。また、事業の見直しに関する意見もいただきたい。 ・出生数に関して、婚活事業に重きを置くのか、2、3人目を育てやすい環境を作った方がいいのか、皆さんの意見をいただきたい。
岩世委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかではなくて、働きやすい環境も含めてほしい。
安田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次回出生数の向上の議論をするのか。
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> ・予め提案をいただければ資料として当日準備する。
安田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉の不妊治療の助成は、国や県と同等のものだと思うが、独自の助成があれば移住定住に繋がると思う。 ・治療の種類によっては金額が70万と高額になるが、助成は一律上限10万円なのか。 ・国や県の助成を使い切ってしまった人への補助を倉吉市で手厚くしてはどうか。 ・晩婚化により、必然的に不妊治療は増える。不妊治療に10年かかる方もいるので、もう少し長いスパンで助成ができれば。
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療が健康保険で対応できるように国に要望しているところ。

6 次回の開催日程

10月下旬開催予定。

7 閉会